

八十里越と叶津口留番所

はちじゅうりごえ かうづ
八十里越は、只見町 叶津から新潟県三条市を結ぶ峠道で、明治時代後期までは中越北部と会津南部を結ぶ重要な街道でした。叶津に口留番所が設けられたのは、越後側の口留番所(三条市 葎谷)が慶長5年(1600)の設置とされることから、同年代と思われます。

叶津口留番所は会津藩により設置され、門や柵を設けて、通行人や物資の出入りを監視していました。取り締まったものは、女・巢鷹(タカの幼鳥)・駒(馬)・蠟・漆・鉛・熊皮・紙ですが、時代を経るにしたがい取り締まる対象物は増えていきました。近世から近代になると只見からゼンマイや蚕種、生糸などを送り出し、越後からは塩や魚介類、斧や鋸などの金物が運ばれました。また、戊辰戦争(1868年)の際は、東軍・西軍双方の拠点として使われました。明治時代になると叶津・蒲生・寄岩3村の戸長役場(戸籍事務などを行う役所)として使用されました。

現存する旧長谷部家住宅は、時代ごとに様々な役割を担い、会津側の玄関口として、八十里越を行き交う人々を見守り続けてきたと言えます。

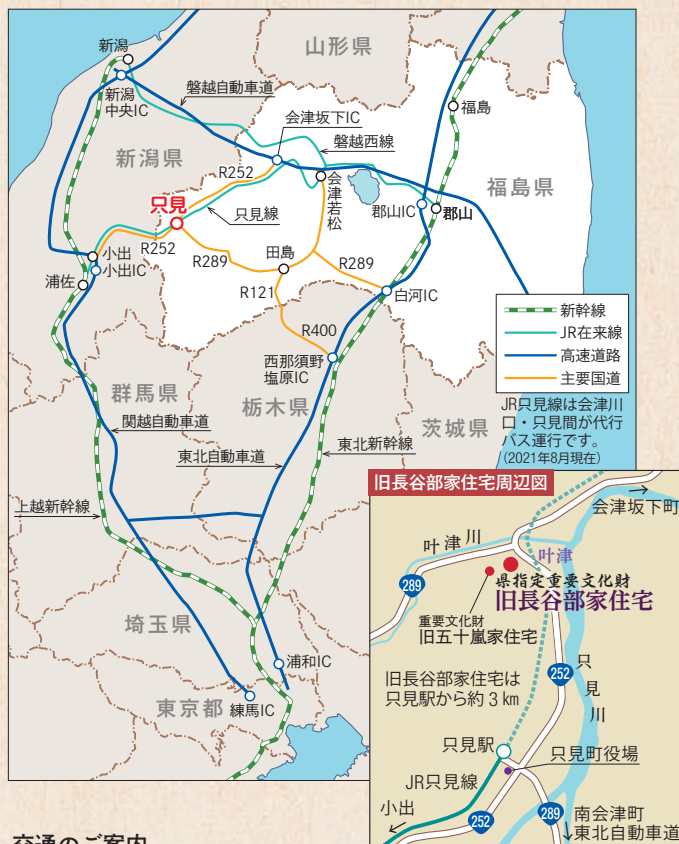


2階娘の部屋



代官や役人が滞在した上段の間

只見町へのアクセス



交通のご案内

- 車
- 東北自動車道・西那須野塩原 IC から約2時間30分
 - 関越自動車道・小出 IC から約1時間30分(冬期間通行止)
 - 磐越自動車道・会津坂下 IC から約1時間30分
- 列車
- 東京-(上越新幹線)-浦佐-(上越線)-小出-(只見線)-只見
 - 郡山-(磐越西線)-会津若松-(只見線)-只見

福島県指定重要文化財 旧長谷部家住宅

〒968-0415 福島県南会津郡只見町大字叶津字居平456番地の1
TEL. 0241 (71) 8218

開館時間 10:00～16:00

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)

11月下旬～4月下旬は冬期休館

入館料 無料

[お問い合わせ] 只見町教育委員会 生涯学習係

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30

TEL.0241 (82) 5320 FAX.0241 (82) 2337

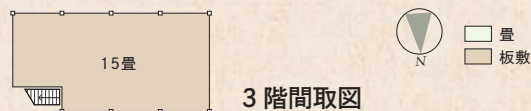
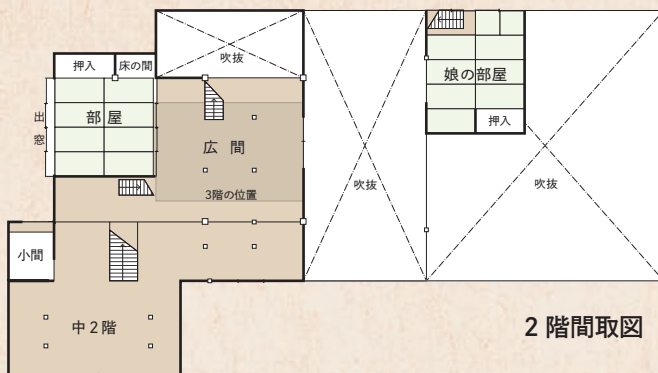
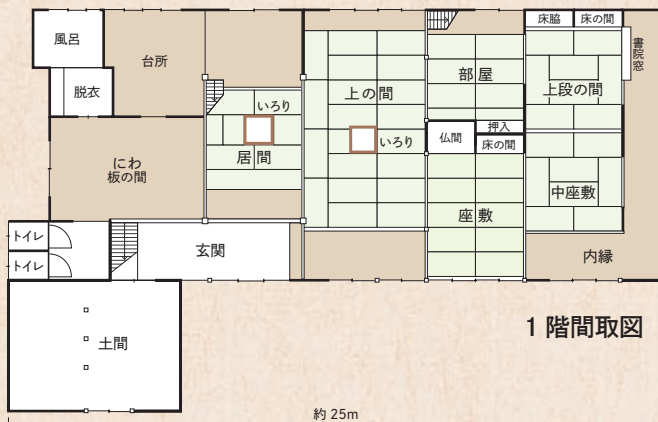
福島県指定重要文化財 旧長谷部家住宅



福島県只見町



旧長谷部家住宅全景



旧長谷部家住宅間取図

叶津口留番所・旧長谷部家住宅年表

年 次	事 項
慶長5年(1600)	越後長岡藩主堀直奇(ほり 直より)が会津上杉への備えのため葎谷に番所を設け、八十里越の通行取り締まりを開始(叶津口留番所も同時期に設置か)
寛永20年(1643)	叶津口留番所が物資の出入り取り締まり開始
天保5年(1834)	大飢饉により越後からの救援米が八十里越で運ばれる
天保14年(1843)	八十里越の大改修。牛馬道になる(古道)
慶応4年(1868)	北越戊辰戦争により長岡藩士とその家族が八十里越で会津に逃れる。長岡藩家老河井継之助が只見で没する
明治12年(1879)	長谷部家が戸長となり戸長役場が置かれる
明治14年(1881)	八十里越中道を開削
明治27年(1894)	八十里越新道を開削
昭和48年(1973)	3月23日、福島県指定重要文化財(建造物)に指定
平成13年(2001)	前面、東西屋根の一部を修理
平成18年(2006)	前面屋根の一部を修理
平成24年(2012)	東西と裏面屋根を修理



いろりが中心に置かれる上の間

旧長谷部家住宅の建築様式

旧長谷部家住宅は、桁行が13間(約25m)近い規模の大きな厩中門造り(曲り家)で、大きな茅葺の屋根は高く、せがい造りの深い軒を持つ重厚な建物です。建築年代は江戸時代後期と考えられています。

柱は台所と居間の境が35cm、居間周りは25cmと太く、差し鴨居は高さ51cmと大きなもので、仕上げはいずれも鉋掛けとなっています。雪国会津の通例として座敷周りに広い内縁を設けています。現在、台所全体が板張りですが、当初は一部が土間であったと考えられます。

公務に使われた上段の間・中座敷は共に竿縁天井が張られ、これらの部屋には面皮長押が施され、格式の高い造りになっています。また、中座敷前面に公務用の入口が設けられていました。



屋根の葺替え(平成13年)

公務用の入口



2階広間